

## ～中間管理の徹底で生育をコントロールしましょう～

### 1 品質の高い麦づくりを

令和3年産麦についても経営所得安定対策の数量支払いの制度は変わりません。等級が高く（1等）、ランクの高い（Aランク）麦を多く生産することで助成金が高くなる制度です。

以下の指標をあげるには、基本技術の励行が大切です。

#### 【タンパク質】

排水対策、適性肥培管理（基肥＋追肥一発）追加を検討、土入麦踏みの徹底

#### 【容積重】

登熟不良（天候不順、病害、倒伏、穂発芽等）により低下するため

排水対策、適期防除、適性肥培管理、土入れ・踏圧等の励行

#### 【フォーリングナンバー（でんぷん粘度）】

収穫期の降雨で低下し、倒伏し穂発芽すると著しく低下するため、排水対策、適期収穫

※この3点を踏まえた栽培管理と、赤かび病の防除が重要になります。

### 2 栽培管理について

#### (1) 土入れ・麦踏み

##### 【土入れ】

分けつの調整・寒害、干害からの保護、雑草の発生防止、倒伏防止などの効果があります。

##### 【麦踏み】

分けつの増加・霜による根の持ち上がり防止、生育の抑制、生育の均一化による穂揃い向上などの効果があります。

※いずれも土壌が乾燥しているときに行ってください。

早播きや多肥等で生育が旺盛な場合は、さらに土入れ・麦踏みの回数を増やし、生育をコントロールして下さい。※2月以降も平年より高めの気温が予想されています。茎立ち期に入るまでは、できるだけ回数を増やして分けつを確保してください。

土入れ	麦の生育を コントロール	1月中旬・2月上～中旬・2月下旬 土塊が大きくならないよう、表層の土を薄くかぶせる
麦踏み		12月下旬・1月中旬・2月上～中旬（茎立ち前まで） 土入れも同時に行う場合は、土入れ後に踏む

土入れにより出来た溝は、表面排水に役立ちます。

ほ場周囲の排水溝（明きよ）と繋げ、降雨後の速やかな排水を行いましょう。

※麦は湿害にとっても弱い作物です。排水対策には特に力を入れ、降雨後の排水対策に努めてください。



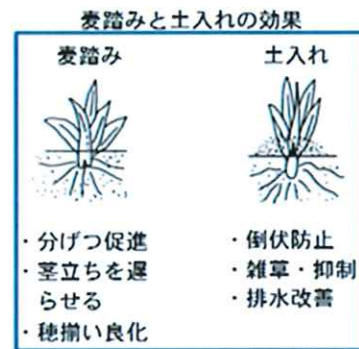
土入れによって  
できた溝は湿害に効果



## (2) 除草



【周田溝と排水溝をつなげた圃場】



基本的に土入れ作業が除草を兼ねますが、除草剤を使う場合は耕種基準に準じます。

なお農薬を使用する場合は、必ずラベルを確認し、登録の範囲内で使用するとともに、周辺環境へのドリフト等に注意して下さい。

除草剤を使った動噴やタンク等は、すみやかに消石灰を使ってしっかり洗浄して下さい。

### 【除草剤】

使用時期	薬剤名	使用量 (/10a)	備考
1月下旬 (麦1葉期 ～節間伸長前)	ハーモニー 75DF 水和剤※臨 機防除用	水 100 ㍓に 7～10g	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ (ただし5葉期まで)
	アクチノール乳剤 ※臨機防除用	水 100 ㍓に 100ml	一年生広葉雑草(麦穂ばらみ期 までハーモニーとの混用可)
	エコパートフロア※臨 機防除用	水 100 ㍓に 100ml	一年生広葉雑草(麦収穫45日前ま でハーモニーとの混用可)

※広葉雑草が多い場合 (広葉雑草の3葉期～6葉期) までバサグラン液剤  
水 100 ㍓に 100mI (イネ科雑草を除く) 但し 収穫 45 日前まで



カラスノエンドウ



スズメノテッポウ

## (3) 分げつ肥 (追肥)

分げつ肥は分げつを増やし、穂数を確保するために4～5葉期頃に行います。

窒素肥料で10aあたり2kg (硫安10kg) を目安に施用してください。

※分げつ肥は穂数、穂肥は粒数を確保するために行います。